
かごめ かごめ

L

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

かごめ かごめ

【著者名】

IZUMI

N5227A

【作者名】

L

【あらすじ】

わらべ唄を小説にしたものです。『かごめかごめ』がテーマです。

皆さんは、かごめかごめの本当の意味をご存知ですか？

『籠女 篠女』

ある一人の女がいた。その女の腹の中には、小さな赤ん坊がいた。女は嬉しくて、嬉しくて堪らなかつた。だから、『この子は私の可愛い子。この子は私の宝物。この子は私の愛しい子・・・』そう言つていた。呪文を唱えるよつて、そつと。

『籠の中の鳥は』

赤ん坊は時が経つにつれて、少しづつ大きくなつていつた。女はその成長を喜び、また、呪文のように言つ出した。
『この子は私の可愛い子。この子は私の宝物。この子は私の愛しい子・・・』

『ひとつ ひとつ 出やひ』

赤ん坊はもつと大きくなつていった。女の顔には一筋の涙が頬を伝う。

『私の愛しい子が、もうすぐ産まれる。私の宝物が、もう少しで・・・』

『夜明けの晩に』

赤ん坊は夜明けに産まれた。女はぐつたりとしていたが、赤ん坊の顔を見ようと、疲れきった身体を起こし、赤ん坊の側へ そして、赤ん坊の顔を覗きこんだ。
けど、赤ん坊はこの世界にはいなかつた・・・。

『鶴と亀が滑つた』

女の頬を涙が伝う。それは、喜びでも、嬉しさでもない。悲しみのもの。

鶴と亀・・・

幸せの象徴である。

女は泣き叫んだ。声が枯れるくらい泣き続けた。

『この子はいらない。私の子じゃない・・・』

そういうながら、土の奥深くに赤ん坊を埋めた。
冷たい空気が肌に染み込んできた。

『後ろの正面 だあーれ?』

何年か経ち、赤ん坊は土の中で腐つていった。今はもう、肉体などどこにもない。

あるものは、赤ん坊の遺骨だけ・・・。

女は山へと出かけていた。木の実を取りに、山の奥へと進んでいく。ふと足を止める。誰かが後ろにいる。そんな感じがしてしかたなかった。

家を出てから、ずっとそんな感じがしていた。

女はそつと後ろを振り向いた。

後ろには、あの赤ん坊が女を見ていた。

嘲笑いながら、憎しみの念を込めて・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5227a/>

かごめ かごめ

2010年10月11日23時34分発行